

# 観光振興対策特別委員会記録

開催日時 令和元年9月9日(月) 10:04~11:21

開催場所 第1委員会室

出席委員 8名

岩田 国夫 委員長  
藤野 良次 副委員長  
樋口 清士 委員  
乾 浩之 委員  
松本 宗弘 委員  
佐藤 光紀 委員  
中野 雅史 委員  
和田 恵治 委員

欠席委員 なし

出席理事者 折原 観光局長

増田 まちづくり推進局長 ほか、関係職員

傍聴者 なし

議 事

(1) 9月定例県議会提出予定議案について

(2) その他

<会議の経過>

○岩田委員長 それでは、提出予定議案またはその他の事項も含めて、質問があれば、発言お願いいたします。

○佐藤委員 前回、この委員会においては、県内調査ということで、奈良公園バスターミナル、そして平城宮跡歴史公園と回らせていただき、奈良公園バスターミナルについて、現地でお話をさせていただいたかと思いますが、オペレーションについて、二、三質疑をさせていただきます。

現地に行って、委員全員、関係の方々とともに同じ視点で同じ時間に見させていただいて、やはり利用客が非常に少ないという印象を受けています。それに対して、4月13日の運用開始から、まだ、二、三カ月しかたっていませんが、その中で予約システムが相手方に完全に理解されていないケースにおいて、予約せずに来てしまった事案をご紹介させ

ていただいた。そのときに、次回から気をつけます、お金は払います、75歳以上ではないけれども、高齢者、足の悪い方もおられるのでという話もさせていただきましたが、予約をしていないということで断られ、予約している高畑駐車場に回ってほしい、そこで乗りおりしてほしいというオペレーションを受けて、実際にバスはそちらに行かなければいけなかった、非常に対応が悪かったという声が私のもとに届いています。

そういったことも踏まえて、対応していただけるということでしたが、その後の展開をお聞かせください。

**○竹田奈良公園室長** 佐藤委員からのご質問にお答えします。

佐藤委員からは、奈良公園バスターミナルの現場のオペレーションが非常に悪かったということで、ご意見いただきました。その点につきましては、非常に申しわけなかったと反省しています。事前に予約していただいて、当日になって、ある程度予約が変更になることが想定されたときに、柔軟に対応できなかったことについて、非常に申しわけなく思っています。改めて、バスの利用者にご負担をかけたことについて、謝罪申し上げます。

そのケースについては対応ができなかったのですけれども、そういうときには柔軟な対応ができるように、運営会社にもきつくお話しさせていただきましたので、ご容赦いただきたいと思います。

今後、利用される方の視点に立ったバスターミナルの運用について、努力してまいりたいと考えています。よろしくをお願いします。

**○佐藤委員** この件については、委員長にも報告させていただいて、同意をいただいた上でのお話の展開なのですが、実際に、その後のオペレーションに、私は不安を感じていまして、注視をさせていただいているところ、先日、NHKで報道されたわけです。何かというと、2カ月の目標台数に対し、利用台数が半数以下、下回っているということで、歳費を45億円もかけながら、この運用形態はいかがか。このバスターミナルは乗降専用ということで、高畑駐車場が近い。反対に上三橋駐車場が遠いということで、イベント会社からも、正直、時間が読みにくいと言われていました。時間帯により、道路が混雑したり、バスを停車する場所も奈良市内に限っては、非常に難しい状況の中で時間が読みにくいといったことも踏まえて、バスターミナルのオペレーションに、ヒントが隠れていると私は思います。来るバス全てを受け入れる体制というのも試算に入れてみたらどうか。試験運用期間も考えられてはどうかと思うのですけれども、予約をしていなければとめられないという、オペレーションが今後も続くのでしょうか。確認させてください。

○竹田奈良公園室長 奈良公園バスターミナルにつきましては、当初、県庁西の交差点で、少し渋滞が起こるのではないか、交差点ターミナルの入り口で混雑が起こるのではないかということもあって、運用を少し柔軟にしていたところもあります。そういうこともあって、高畑駐車場の利用がふえたということもあります。

NHKの報道での利用台数の話もありますけれども、それは今、申し上げたとおり、運用の中で少し安全運転をしていたところもあり、うまく機能していなかったところが少しはあったのかと思います。その点については、改善していきたいと思います。

それから、上三橋駐車場が少し遠いのではないかということも、ドライバーからご意見をいただいています。それから、希望する時間帯でなかなか予約ができないというご意見もいただいています。当初の計画では、大仏殿前駐車場の入り口が狭くて混んでいるということと、事前に予約をしないで来られたバスから料金を徴収することで、渋滞を引き起こしてしまっていて、近鉄奈良駅まで渋滞していたことが結構ありました。そういうことから、事前予約制という形で運用させていただいたところですが、もう少し柔軟に運用ができないかということもありますので、その点についてはもう少し検討を重ねたいと思います。

ただ、事前予約制をなしにすると、バスが集中して混乱してしまうことが懸念されますので、少し慎重になっています。運用の中でできることをしっかりと改めて精査しながら、利用者の視点に立って、もう少しうまく運用ができないかも含めて考えていきたいと思っています。よろしく申し上げます。

○佐藤委員 ありがとうございます。事前予約をする形で、奈良公園バスターミナルでおりてもらい、その後、高畑駐車場に向かってもらい、また乗せにくるということで、バスが高畑駐車場の前を出入りする乗降スタイルが、非常に危険だと思っていて、運用を注視しています。先日、9月4日付で報道されているのが、高畑駐車場において、乗降しないという案内があったかと思うのですが、この点について、もう少し説明していただけないか。

○竹田奈良公園室長 今、ご質問いただいた件につきましては、高畑駐車場での乗降が喚起されているように思われましたので、そのことについて、周知するという意味で、高畑駐車場での乗降がなかなかしにくくなりますということを改めて案内しました。これまでは高畑駐車場での乗降が慣習化していましたので、それを改めて、奈良公園バスターミナルで乗降いただいて、バスには高畑駐車場に行ってくださいという趣旨を書かせていただいたということです。誤解のないようにお願いしたいと思います。

○佐藤委員 誤解のないようにお願いしたいと言う前に、この表示が非常に誤解を招きやすいと思っていて、使用料金の一覧のところと、文末だけとったら、これに伴い高畑駐車場での乗降は当面の間、ご利用いただくことができなくなりますとあります。この日本語はどうなのか。実際に、高畑駐車場で乗りおりできなくなるということなのですから、今の回答でしたら、高畑駐車場でも乗りおりできますという話ですよ。

○竹田奈良公園室長 誤解ということは訂正させていただきます。

高畑駐車場での乗降を少なくするという意味で書かせていただいたのですが、委員がおっしゃるように逆に誤解を招いたような形になります。ベースとしては奈良公園バスターミナルで乗降いただいて、バスは高畑駐車場ということです。ほとんどのご利用をそうしていただけるように、仕組みを改善していますということが、少し舌足らずになったと思います。文章も少し改善させていただきます。

○佐藤委員 やはりメディアが報道すると、伝わる範囲が広いので、料金設定についても誤った形で伝わっているのではないかと。2,000円を払って、さらにお金が必要だ、ととれる報道がされているのですけれども、その点について、このまま放置すると誤った考えが広まってしまいます。県としてはどのように対応される予定ですか。

○竹田奈良公園室長 佐藤委員のおっしゃるとおり、先日のNHKの報道を見ていますと、少し誤解を受ける可能性があると感じました。

といいますのは、奈良公園バスターミナルで乗降してバスが駐機場に行くと、さらにお金がかかるというように見えた報道でした。実際は、奈良公園バスターミナルを経由したバスが、高畑駐車場で乗降する場合、セット料金になっていて、その金額と、奈良公園バスターミナルを利用せずに高畑駐車場で乗降する金額に差があるということだったのですけれども、上乗せして追加料金をとられるという報道でした。その点については、NHKに間違いがあったと申し入れをしたいと思います。以上です。

○佐藤委員 その申し入れも必要だと思いますし、あわせて、ホームページの案内で、料金表がトップに出る形で、再度、周知を図られてはどうでしょうか。料金表がホームページでは見にくいのです。

バスターミナルは45億円をかけて整備されましたが、レクチャーホールも全然利用者がいないように思います。もっと周知していただいて、ご利用いただく必要がある。定期的なバスの乗り入れのオペレーションも加えていただいて、人がもっと集まる、利用していただくように改善していただきたいと思います。オペレーション一つとっても、このよ

うにいろいろな弊害が出て、周りの運転手をはじめ、利用客からそのようなご意見をいただいている。それに対して、県の対応が万全かといったら、改善しなければならないところが多々あると思います。

話が脱線するかもしれないのですが、奈良公園バスターミナルには、広い空間がありますが、非常時のオペレーションについてはいかがお考えか、ご存じでしたらお答えいただきたい。

**○竹田奈良公園室長** 非常時の対応についてご質問いただきましたけれども、その点についての連携は、まだできていません。

昨今、奈良公園についてはインバウンドの方がかなり多くいらっしゃいますので、インバウンドの方に対して非常時にもうまく対応できるように、今後は考えていく必要があると思います。関係部局と調整しながら、その点について考えていきたいと思っています。以上です。

**○佐藤委員** ありがとうございます。通常時のオペレーションだけでなく、非常時のオペレーションにおいても、バスターミナルの活用方法はたくさんあると思います。せっかくなつくったものを生かすか、殺すか、最初の分岐点だと思いますし、今後注視させていただいて、お話をさせていただきたいと思います。

また、広い会場を使つてのイベント開催で、バスターミナルに人が来ていただくような仕掛けも、私は必要だと思っていますので、総括して増田まちづくり推進局長からご意見いただければと思います。

**○増田まちづくり推進局長** 奈良公園バスターミナルのオペレーションにつきましては、佐藤委員がおっしゃったように、高畑駐車場に駐機するはずだったバスが間違つてこちらへ来たというところは、柔軟に対応すべきだと私も思っていますし、今後、改善していきたいと思っています。

当初、ピーク時に高畑駐車場で乗降する形で運用しようと考えていましたけれども、供用開始後まもなくはオペレーションも慣れないもので、若干、抑えた形になっていました。今後、こちらの予約の件数をふやして、高畑駐車場へとめるバスをふやしていきたいとも考えています。

それから、レクチャーホールにつきましては、イベントを開催していても、こちらでバスをおりられた方がなかなか気づかないということもありますので、おりられた方がわかるように、見やすい看板等を設置するとか、ガラス張りになっていますので、イベントを

やっているということも表示していきたい。

レクチャーホールの活用につきましては、私も鋭意使うよう言っています。最近警察の音楽隊にも使っていただいていますし、ほかのイベントにも使っていただいていますので、積極的に活用してまいりたいと考えています。以上です。

○佐藤委員 増田まちづくり推進局長ありがとうございます。実際に混雑していて、交通整理をしなければいけないという観点での予約は、私は必要だと思います。ただ、中ががらんでもかかわらず、「済みません、予約していませんがとめさせてください」という声を足蹴にしてしまうのは、絶対に改善しないといけないですし、あいているのならどんどんとめさせるというのも一つの発想の転換だと思います。今のオペレーションを、議論させていただいた内容に沿って、早速ホームページの修正であるとか、申し入れの件であるとか、県からの発信をしっかりといただいて、多大なる県税を使ってつくっている施設を少しでも活用できるよう、将来的には必要になってくる施設と思っていますので、ぜひとも考えていただきたいと思います。以上です。

○和田委員 私は、2点質問したいと思います。

1点目は、記紀・万葉の集大成年について、それから、2点目は山の辺の道のにぎわいづくりについてです。

記紀・万葉のことですが、既に去年の段階で平成30年度の予算で集大成年の準備作業を行うということでした。そして、来年はいよいよ本格的な集大成年の事業実施ということになります。来年1月から3月の企画をすることですが、来年の企画、広報をどういう形でまとめていらっしゃるのかを明らかにしていただければありがたいと思います。

2点目の山の辺の道についてですけれども、桜井市の大神神社からずっと北上していく中で、古道の山の辺の道があります。ここは、記紀・万葉の古道として、大変重要ですが、その沿道に、なら歴史芸術文化村が建てられます。そういう意味で、山の辺の道は観光資源として、大変重要な位置になってくるのではないかと思います。山の辺の道について、記紀・万葉の観光振興ともかかわるのですが、どのように取り組みを進めているのか、聞かせていただきたいと思います。

○酒元文化資源活用課長 今年度1月から3月までの間に考えている記紀・万葉の企画等についてご質問です。

記紀・万葉プロジェクトは日本書紀完成1300年に当たる2020年の1月から12月を集大成年と位置づけ、コンセプトであります歴史・文化を楽しく体験できる奈良県を、

イベント等で盛り上げていきたいと考えています。

今年度に行うことについては、12月までにポスター、チラシ、デジタルサイネージ等の広報ツール、ホームページを作成しまして、県全体で記紀・万葉に向けての機運醸成が図られるよう広報展開を実施していきたいと考えています。

また、2020年1月には、奈良春日野国際フォーラムでオープニングイベントを実施し、これを皮切りに、年間を通じたさまざまなイベントが継続されるように、PRしたいと考えています。

また、別途、来年1月15日から3月8日までの間、東京国立博物館において特別展「出雲と大和」を開催します。東京オリンピック・パラリンピックが開催される年ですので、この場で古代の日本、日本の文化の源流に着目した展覧会を開くことで、日本の始まりである奈良の魅力を発信したいと考えているところです。この中で、記紀・万葉についてもPRしていきたいと思えます。

また、4月以降につきましては、記紀にゆかりが深く、日本の始まりの地でもあります中南和地域の各市町村や民間団体とも相互に連携しながら、県全体でいろいろなイベントを行うとともに、県としても集大成年にふさわしいシンボルイベントなどを、来年度当初予算に向けて検討しているところです。

加えまして、2020年は藤原不比等没後1300年に該当しますので、これを記念した事業もあわせて検討したいと考えているところです。以上です。

**○桐田ならの観光力向上課長** 山の辺の道に関しまして、観光資源としてどのように活用するのかというご質問をいただきました。

山の辺の道周辺につきましては、日本の原風景とも言える美しい景観や豊かな自然環境、また、おいしい農産物、歴史、伝統文化など、多くの地域資源に恵まれた地域であると考えています。

現在、山の辺の道につきましては、歩く・ならのホームページで、大神神社や箸墓古墳を通るルートなどを県の推奨ルートとして紹介しているところです。歩く・ならのホームページにつきましては、年間120万件以上のアクセスがあるなど高い関心を寄せていただいています。

また、歩く・ならの取り組みをさらに推進するため、平成27年度から、奈良盆地周遊型ウォークルートとして、奈良盆地エリアにおいて、楽しく安全に歩けるウォークルートを設定して、山の辺の道を安全、快適に歩けるよう、統一的な案内サインの整備をしたと

ころです。

さらに公衆トイレの洋式化やW i - F i 環境の整備で、外国人の観光客が快適に周遊滞在できる受け入れ環境の整備が重ねて必要であると考えています。そのため、今までにJ R 三輪駅前の公衆トイレや、近鉄桜井駅構内にある観光案内所のW i - F i 整備を進めました。

今年度、大神神社の前の公衆トイレの新設について支援しているところでございます。

また、なら歴史芸術文化村及びなら食と農の魅力創造国際大学校関連施設が整備されますので、これらを核とした山の辺の道周辺の農村地域におけるにぎわいの創出と地域活性化を目指して、民間事業者、農業者、県、市町村等が連携して、山の辺の道地域戦略会議をことしの5月に設立したところです。

今後は、戦略会議の場も活用しながら、山の辺の道周辺地域の観光振興に取り組んでまいりたいと考えています。以上です。

**○和田委員** 記紀・万葉の事業について、再質問します。

記紀・万葉については、奈良県の観光戦略として、最重要な位置にあるのではないかと。国の始まり奈良と言っています、ロゴにあらわれている内容は、まさに記紀・万葉のことではないかと思うのです。そういう意味で、観光戦略に国の始まりの奈良の記紀・万葉をどう生かすかということについては、この10年取り組んできたけれども、まだ発信が弱い、このように思います。その証拠に、インバウンド対策を見てもわかるように、観光振興対策特別委員会の報告で指摘しているように、まばらなインバウンドしか来ていない。それから、県が力を入れた、宿泊客、宿泊施設も中南部は頑張っています。これに対して、民間では一生懸命あれやこれやと考えているけれども、県としてのかかわりが弱いのではないかと思います。市町村で宿泊施設を誘致し、そして、民間がつくるということになると、大いににぎわいをつくらないと、宿泊施設がたちまち後退してしまうことになると思います。中部や南部の観光振興のために、記紀・万葉は非常に有効な観光資源だと思うのです。そういう意味で、観光戦略という意味での記紀・万葉を考えた来年のテーマ、あるいは総括について、折原観光局長、答弁をお願いします。

**○折原観光局長** 記紀・万葉を観光戦略にどう生かすかということです。県では観光キャンペーンを展開していますが、今年度薬師寺東塔が落慶されますので、それをメインにしています。それに加えて、藤原不比等、さらには万葉のふるさとということを観光キャンペーンの核にして、本年度、展開しているところです。

令和という、万葉集にちなんだ元号になりましたのは今年度に入ってからでしたので、そういった意味では取り組みが必ずしも十分ではないと思っていますので、来年度も引き続き、万葉のふるさとというものを観光キャンペーンの核にしまして、さまざまな取り組みを展開していきたいと思えます。以上です。

**○和田委員** 今年度の1月から3月に企画され、広報されるという内容はぜひとも事前に、この委員会に対して報告いただきたい。

また、観光戦略として、記紀・万葉が奈良県における重要な一級の位置だと認識されるならば、例えば記紀・万葉の観光資源をずっと全国に発信していただいて、訪問をしやすいように、そういう意味で観光資源地を訪れやすい観光ルートを、記紀・万葉の観光ルートをつくってもいいのではないかと。記紀・万葉のふるさと奈良を訴えていくような手法がもっともっと必要ではないかと思えます。

そして、奈良県ビジターズビューローでも記紀・万葉の観光ツアーの商品パックが大変弱いように思えます。1項目か2項目ぐらいしか書いていないのではないかと。そういう意味でも、県をあげての記紀・万葉の事業推進の方向が見えていないという意味で、来年は記紀・万葉にこれから本格的に取り組む年として位置づけて展開していただきたい。これまでの10年は助走、準備期間だと思えます。国の始まり奈良の魅力アップを一生懸命にやっていただきたい。このことを要望します。

それから、山の辺の道のことです。先ほど答弁してもらいましたが、景観を大切にしてい、公衆トイレを整備していくことが大変重要だし、また、この地は日本武尊が住んだ、あるいは生まれた土地だということもあり、万葉歌碑もたくさんあります。そういうことを総動員するような山の辺の道のすばらしさを出していただきたいと思うのですが、そのような企画はありますか。

**○桐田ならの観光力向上課長** 先ほど申し上げましたとおり、山の辺の道は、奈良県の中でも本当にすばらしい観光資源と考えています。

案内サインにつきましては、大小合わせまして既に100を超える案内サインを、山の辺の道周辺に整備させていただいています。

今後とも、関係市町村と連携しながら、必要に応じて公衆トイレ整備、Wi-Fi整備に対する支援等は継続したいと考えています。以上です。

**○和田委員** 1つ注文をつけておきます。地域戦略会議が山の辺の道に沿ってつくられているとおっしゃられました。私は、山の辺の道の土産売り場やレストランへ行っています。

そこがとても重要な飲食できる場所になっておりますけれども、会議に参加していない。重要な人あるいは社寺、仏閣の人たちが会議に参加をしていないと聞いています。そういう意味で、網羅するように会議を充実していただきたいと思います。

そして、民間の知恵、いろいろな知恵を吸い上げて、県としてこれから頑張りたい。そういう意味での地域戦略会議の充実をお願いしておきます。

**○樋口委員** 私から2点、質問させていただきます。

まず、1点目なのですが、最近のこととなりますが、日韓関係が結構悪化していて、ウォン安も合わせて、韓国からの訪日客が随分減少していることは周知のことかと思えます。奈良県での状況を見ますと、平成30年のデータでは、外国人観光客が大体年間280万人ほどいて、そのうちの10%程度が韓国からのお客様ということで、約28万人ぐらいです。泊数では、これは外国人全体の平均ということになりますが、0.5泊あるので14万泊、消費額も6,700円程度ですので19億円、結構なボリュームだと認識していたところですが。韓国からのお客様に頼っている観光地とは少し違うということはあるかもしれませんが、今、こういう状況の中、県下でどの程度の影響が出てきているのかというところは、把握が必要ではないかと思えます。この点、県で何かつかんでいるものはありますか。

**○岡本インバウンド・宿泊戦略室長** 樋口委員からのご質問は、日韓関係に関する奈良県の観光への影響ということかと思えます。おっしゃいましたように、全国の状況としましては、国、JNTO、日本政府観光局が発表しています、訪日客数の減少により、地域によっては深刻な影響が出ていることは承知しているところです。ただ、直近の奈良県の状況がどうなのかということにつきまして、例えばインバウンドの国別の訪問者につきましては、県独自での調査はもともとしていません。宿泊者数につきましても、調査結果がそろわないに時間がかかって翌年になりますので、例えばこの夏場の間はどうかと具体的にお示しさせていただけるデータは持ち合わせていません。

ただ、聞くところ、県内の宿泊事業者とのやりとりなのですが、インバウンド総数としましては、近年の傾向どおり、全体としてずっと伸びているという話を聞く中で、一部の宿泊事業者、特に韓国からの受け入れを割と得意にされているところからは、確かに韓国からの団体客が最近来られなくなって、前年に比べて減少しているという声は聞きます。宿泊施設としては、インバウンド客全体がむしろふえているという話なのですが、こういった日韓の2国間状況が長引くと、近隣での宿泊施設の競争の影響が出てくるので

はないか。例えば、大阪で韓国人客が非常に減っていることは報道等からも聞いているところですが、そういったところで、例えば大阪で韓国以外の国からの観光客の取り込みの競争が、今後、激しくなって、その影響が奈良にも数として及んでくるのではないかと懸念されている声は聞いたりしているところです。以上です。

○樋口委員 データがなかなかすぐそろわないというのはよくわかります。生の声がちょこちょこ聞こえてきている、今後のことを心配されている声もあるということなのですが、恐らくこれはすぐに解決するような話ではなくて、長期化も予想されるという中で、2つのことを少し考える必要があるかと思います。それで当面のことをどうするか、隣接する自治体との競争にさらされていく中で、どう対応していくかということについて、県として何か考えるのか、考えないのかというところが1つ。

それと、今、インバウンド観光戦略20年ビジョンを作成していますね。インバウンドは、国際関係や経済情勢によって、かなり影響を受ける分野になるので、こういうリスクに対して、何か考えなくていいのかというところで、こういうことがあったときに、影響がどの程度出てくるのかの検証作業は、今回の件を事例としてやっておいてもいいのではないかと思います。

こういうところでの対応が考えられると思うのですが、県として、短期的あるいは長期的なところで何か考えていることがあればお答えいただければと思います。

○岡本インバウンド・宿泊戦略室長 当面の話と長期的な話ということですが、当面の話になりましたら、ことしの事業の中での話になるのですけれども、この秋、ラグビーワールドカップが始まる時期から冬場にかけて、インバウンド宿泊キャンペーンを実施します。これは、外国人に泊まっていただくに当たって割引をするキャンペーンなのですが、特に冬場に向けて広報を強めていって、全世界に対して、国の機関等にも働きかけながら、奈良県への誘客を、今年度の事業の中で進めていきたいと考えています。

個別の1つの事業という話でしたけれども、長期的な話で言いましたら、まさに樋口委員がおっしゃっていただいたように、今、私達がつくろうとしています、インバウンド観光戦略20年ビジョンは、持続可能な観光地になるための長期的な戦略と捉えていますので、委員がおっしゃいましたように、国の関係によって左右される部分というのが、当然、出てくるかと思います。そういうリスクに対してどうするのか、もともと奈良県は全方位的な誘客に努めていますので、そういったこともさらに進めながらということなのですが、こういうリスクに留意しながら、20年ビジョンにつきましても考えていかなければ

ればならないと考えます。以上です。

**○樋口委員** わかりました。2点目に移ります。これも先ほど佐藤委員がおっしゃっていた、県内調査で平城宮跡歴史公園に行かせていただきましたけれども、そのときにお話を伺った中で、拠点ゾーンの中で、特に県有施設の部分が平成30年度から供用しているということです。それまでの公園の利用者数が110万人で、平城宮跡歴史公園ができて131万人ということで3割増ということにはなるのですが、少し聞いていて寂しいというのが実感としてありました。これは私の個人的な意見ですが、この数字を、まず県としてどのように評価されているのかお聞かせいただけますか。

**○松岡平城宮跡事業推進室長** ただいま樋口委員よりご質問のありました、平城宮跡歴史公園の来場者数についてですが、基本が国営公園ということで、国で昨年1年間の来場者数、開園部分について調査をされた結果、131万人という報告をいただいています。

その中で、特に朱雀門より南側の朱雀門ひろばにつきましては、国営の施設、県営の施設が設けられていまして、それぞれの施設への来場者数も把握していまして、それが昨年度1年間でおおよそ30万人という状況です。

この数字について、どのように考えているかということですが、我々としましては、平城宮跡全体では周辺の住民の方が、駅なり、近隣の商業施設へ通われる際に通り過ぎていく従来からの通過利用の数も含めて、100万人であったのが、供用開始により131万人までふえたということは、一定の成果であろうと考えています。

しかしながら、131万人で十分かと問われましたら、まだまだこれからも、現在も国におきましては、南門の復元整備事業などが進められていますように、平城宮跡に関しては、今後もさらに魅力を高めるための整備が進んでいます。そういったことも踏まえて、より一層、多くの方に来ていただけるよう、国、県等関係機関が連携して、今後も取り組んでまいりたいと考えています。以上です。

**○樋口委員** 今、ふえた30万人に対して、余り直接的に触れられなかったと思うのですが、南門の修復等々、これからの整備が進んでいってからということではなくて、特にこの拠点ゾーンでの入り込みをどうふやしていくのかということをもう少し考えられてもいいのかと思います。そもそも、この拠点ゾーンの施設については、学習のための施設なのか、集客のための施設として利活用をどんどん進めていこうという位置づけを持った施設なのか、県としてどういう位置づけなのか確認させてください。

**○松岡平城宮跡事業推進室長** 平城宮跡歴史公園が学習の施設であるのか観光の施設であ

るのかというお尋ねですが、県としましては、両方の意味合いは当然あると考えています。あのように歴史的に貴重な場所が特別史跡として、これまで保存されてきたという値打ちを十分に認識した上で、ただ、それを保存するだけではなく、活用することによって、多くの方に歴史を知っていただき、また、奈良の魅力を知っていただくという場であろうと思っているところです。

そういう意味で、平城宮跡歴史公園への集客という点に関しましては、現在もそうですが、修学旅行や遠足等の学習旅行、教育旅行を中心に考えるのはもちろんですが、それだけではなく、インバウンドの方も含めまして、より多くの観光客に来ていただけるよう、大宮通りという県のメインストリートに面している点も地の利があると考えていますので、そういった点からも、たくさんの方に来ていただけるように取り組んでいくべきと考えています。以上です。

**○樋口委員** 集客施設として使うことは非常にあるべき姿かと思います。せっかくの資源ですので、観光客の方々にもどんどん見ていただく必要がありますし、それを知っていただくということは大事なところだと思います。

その上で、お尋ねしたいのですが、平城宮跡歴史公園は指定管理に出されていて、毎年、指定管理の評価をされますよね。9月にこの評価をされると伺っているのですが、評価しようと思いますと、当然、評価指標が必要で、その基準、あるいは目標値があって、それに対して、どの程度達成できたかという、これが評価だと思います。集客という部分について、この施設の基準値、目標値は設定されているのでしょうか。

**○松岡平城宮跡事業推進室長** 樋口委員のおっしゃるとおり、県有施設につきましては、指定管理者を指定しまして、運営を任せています。指定管理者事業としまして、委託している事業としては、建物の適切な維持、管理により、公園を訪れた方々に公園を快適に楽しんでいただくためのサービスを提供するということと、指定管理事業者自身が、カフェ、レストラン、それから物販等の事業を通じて、自主的に営業活動を行うという部分の2つに分かれています。

委員のおっしゃる目標につきましては、まず、来場者の数という設定があります。その目標数につきましては、県から示したのではなく、指定管理者自身がこの施設では大体これぐらいのお客さんが期待できるのではないかという設定のもとに、事業の計画を立てています。初年度につきましては、残念ながら目標到達はしていません。それは、正直、施設の周知がまだまだ不十分なところもあるかもしれませんし、あるいは見込みが甘かつ

たという部分があるかもしれませんが、次年度以降は、そういった部分の修正もしながら、それを踏まえて、新たに事業計画を立てて運営を進めていくことで取り組んでいきたいと考えています。以上です。

○樋口委員 目標として示された数字は幾らですか。

○松岡平城宮跡事業推進室長 申しわけございません。今、手元に詳細な資料を持ち合わせていませんので、改めまして、ご説明に伺いたいと思います。

○樋口委員 わかりました。それは後ほど伺いするとして、それぐらいは覚えていてほしかったと思います。根本的なところを申し上げますと、指定管理者の募集要項を見せていただきましたが、管理運営の基本方針の中に利用促進という項目があつて、多くの県民が公平かつ平等に公園を利用できるようにや、多くの県民に利用されるようにということが書いてあり、利用される対象が県民にと非常に限定的に書かれています。今おっしゃられた話で、インバウンドも含めて、あるいは教育観光ということで行くと、県外から全国的に人を集めてこようという、まさにこれだけの資源を全国あるいは世界に発信していくことの必要性を私は十分に感じているところです。ただ、指定管理者を募集するときの管理運営の基本方針の中には、それが全然出てきていない。だから、県のこの施設に対しての位置づけと、今おっしゃられた話が一致しないのです。

まさに、平城宮跡を観光資源の一つとして位置づけて、全国、海外から集客をということで行けば、当然、施設運営の方針も書き方が変わってくるでしょうし、評価の仕方も変わってくるでしょう。指定管理者が、初年度の人数、利用者数の目標を掲げておられたけれども、未達であるということで、その数はわかりませんが、それが集客を見越した数字になっているのかどうか、そのあたりも含めて、あるいはこの施設をどういう位置づけで考えていくのかということも含めて、もう一度ご検討いただく必要があるのではないのかと、今、お話を伺って、さらに施設を見た上で感じたところです。よろしく申し上げます。

○岩田委員長 ほかにございませんか。

ほかになければ、これもちまして質問を終わります。

それでは、理事者の方はご退席申し上げます。ご苦労さまでした。

委員の方は、しばらくお残りお願いいたします。

(理事者退席)

それでは、本日の委員会を受けまして、委員間討議を行いたいと思います。

委員間討議もインターネット中継を行っておりますので、マイクを使ってご発言お願い

します。

なお、委員間討議につきましては、当委員会の所管事項であります、観光力の向上に関することについて、今後、特に議論を深めるべき課題や論点について、ご協議いただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

まず、7月29日に行いました県内調査の概要を取りまとめましたので報告します。

お手元に配付の資料をごらんください。

調査先といたしまして、まず、奈良公園バスターミナルに赴き、奈良公園周辺の観光振興に向けたバスターミナルの役割について調査を行いました。

調査の概要といたしまして、奈良公園バスターミナルは、従来より大きな問題となっていた、行楽シーズンにおけるマイカーや観光バスによる奈良公園周辺の交通渋滞への対策として、平成31年4月13日にオープンした施設です。

バスターミナルの整備により、公園中心部の大型車交通量が減少するなど、流入抑制効果が発揮されています。また、ターミナル機能だけでなく、観光客に向けたガイド機能、おもてなし機能も有する施設となっています。

次に、平城宮跡歴史公園に赴き、平城宮跡を活用した観光振興について調査を行いました。

奈良県では、平成20年度の閣議決定に基づき、古都奈良の歴史的・文化的景観の中で、平城宮跡の保存と活用を通じて、奈良時代を今に感じる空間として、事業化された国営公園と連携して県営公園区域の事業が進められ、昨年3月24日に、平城宮跡歴史公園の供用が開始されました。

平城京天平祭や奈良大立山まつりなどの各種イベント会場として活用されるなど、供用からの1年間で約130万人の来場者があり、ことし4月には、ぐるっとバスが奈良公園までの直通運転を開始するなど、今後の平城宮跡周辺の観光振興が大いに期待される施設です。

次に、桜井まちづくり株式会社へ赴き、観光資源としての空き家活用及びまちづくりについて調査を行いました。

桜井まちづくり株式会社は、桜井らしさと木を生かし、地域資源を大切にしたいにぎわいあふれるまちづくりを目指して、平成28年に官民連携で設立されました。

地域のまちづくりを進めるに当たり、テーマ・ターゲットを設定することの重要性や奈良県中南和地域への誘客や広域観光に関するアイデアを伺うとともに、まちづくり会社の

取り組みについての意見交換、カフェ、レストラン、宿といった空き家を活用した施設を見学し、桜井市での観光振興・まちづくりに関する貴重なご意見をいただくことができました。

以上、調査の結果報告といたします。

それでは、これらの調査結果を踏まえまして、今後、当委員会で取り組むべき方向、また、特に議論を深めるべき課題や論点等につきまして、ご意見をいただきたいと思っております。

それでは、ご発言お願いいたします。どうぞ。

○佐藤委員 今回の県内調査は、非常によかったと思っております。いい部分を見に行くというのも、当然、大事だと思うのですが、これからどうなるかわからないような、今、進行中の課題を抱えている観光施設に行くという点において、非常によかったと思っております。現地で理事者と歩きながら、問題の話をしたり、他会派の委員の皆様と意見を交わしながら回れたことは、非常によかったと思っております。

その中で、全員が共通して感じているのは、きょう、樋口委員からも話がありましたけれども、オペレーションの問題が非常に大きいことです。私も話をさせていただいた点もそこにあつたのですけれども、施設をつくっていくけれども、それが活用し切れていない。中身はどうなっているのか、目標設定はどうなっているのか、きょうの理事者の意見を踏まえても、非常に軽いのではないかと私は思いました。目標設定がなければ、何をもってそこまでお金をかけたのか。奈良公園バスターミナルも今の利用者数が議会で議論されていたとしたら、正直な話、予算は通らないです。恐らく、少しまずいのではないかとということでストップがかかっていたはずですが、現状の利用者数の倍以上の数値が目標値です。渋滞の緩和施策として、バスターミナルをつくるということで議会で可決された経緯があると思うのですが、実際、ふたをあけてみたら人が来ない、オペレーションが回っていない。そういったところは非常にまずいと思っております。

私も含め、委員の中には企業経営者もおられるかと思うのですが、やはり事業計画というものをしっかりと立てないといけません。経営者としては、つくった、やった、赤字だったという事業はやりません。稼いでいく力というものが、今まで軽視されていたかと思うのですが、行政であったとしても稼いでいく必要がある。つまり、集客をして収益を上げていく、施設を維持管理し得る体制まで持っていく、そこまで見守っていて、問題があれば、都度、軌道修正をしていかなければ、日本の観光施策というのは非常に先が暗いと感じています。

皆様からも意見いただけましたら幸いです。

○樋口委員 観光振興対策特別委員会の設置の目的を拝見しますと、質のいいイベントをどうしていくのがテーマとして上がっています。先ほど、和田委員が、記紀・万葉の話をしていました。それに絡めて、どういう企画をという話がありましたが、今、想定されているのが、県が、あるいは市町村が主体となってやっていくイベントというイメージで捉えてしまいがちになっていないかと思います。

先ほどの平城宮跡歴史公園の話も、指定管理者という民間が入ってやっている話で、平城宮跡歴史公園に人を呼ぶためにどのようなイベントを行うかというときに、県丸抱え、あるいは地域抱えのイベントだけではなくて、民間が集客のために行ういろいろなイベントも考える必要があるだろう。県下にいろいろな施設、公園があって、そこでどういうものを考えていくのか。そのときに、県が全部考えるわけにはいかなくて、民間をどう入れていくのか。どういう目的を持たせて動かしていくのが、実は物すごく大事なところではないのかと感じていまして、きょうも申しあげましたけれど、学習ということではなかなか人は集めにくい。けれども、集客ということを前面に出したときに、また違うイベントの打ち方がある。これは、指定管理者側が目標、目的を変えることによって、また、考えてもらえる。目的が変われば相手先も変わる可能性もあって、そういうところも含めていろいろ考えていく課題があるのではないかと考えています。以上です。

○佐藤委員 今、樋口委員が言っていたように、イベントの行い方について、県が負担するというよりも、県が協賛して、民間にやってもらうことも考える必要がある。今のはやりのものであったり、県内には例えばアニメの聖地もあるわけです。吉野町で、そういうイベントを行ったり、普通、行政ではあまり考えられない、行政とアニメのコラボレーションであるとか、東京で言ったらガンダムプロジェクト、こういう、これまでとは全然違う次元でのイベントもあります。先ほど言われたように、今、学習だけではなかなか人は呼びづらい。それと同じように歴史、伝統、文化の強みを最大限発揮していくことはベースであるかと思いますが、ここばかりに集中し過ぎてもイベントが偏ってしまう。今、はやりのもの、これから先、そういったところにも観点を向けて、民間にお願いするような形で、県としては1歩、2歩下がった形でのイベント企画も必要だと私は思っています。以上です。

○和田委員 観光事業の推進に当たっては、民間の力を動員しないと成功しません。そういう意味で、樋口委員、佐藤委員が言われた民間の力を利用、活用することは全くの賛成

です。そういう意味で、県は民間のやりたいということに対してもっと応援をするように、事業資金を応援していただくことが必要かと思います。以上です。

○岩田委員長 それでは、ただいまの意見を踏まえて、今後、佐藤委員の言われたように施設を建設する場合、45億円、50億円もかけるというより、もっと慎重にやらなければいけないということと、樋口委員の言われたように、施設の管理・運営を指定管理者に出すのはいいが、指定管理者の心構えを最初にきっちり確認するべきというご意見だと思います。

和田委員も含めた、3人の意見を踏まえまして、その方向で協議を今後とも進めてまいりたいと思いますが、皆様、よろしいですか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

それでは、そのようさせていただきます。

特にご意見がないようですので、これで委員会討議を終了します。

それでは、これもちまして本日の委員会を終わります。ありがとうございました。